

「平成31年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 2 年 7 月 1 日

事業名称		国際理解教育推進事業費[小中学校英語指導助手派遣事業]										
予算科目	款	10	教育費	項	1	教育総務費	目	3	教育指導費	事業番号	15	
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 市単独 <input type="checkbox"/> 補助対象 <input type="checkbox"/> 市が実施することが法律等で義務付けられているもの(市の上乗せあり)											
担当部署・課長名	教育指導			課			指導			係	課長名	佐藤 洋士
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。									施策番号	1 - 1		
【施策名】 学校教育の充実									総合計画書(ページ)	31		
この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。					① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)						
	①市立小学校に在籍する生徒 ②市立中学校に在籍する生徒					①3~6年生児童数 ②生徒数						
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]					② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)						
①市内小学校に在籍する児童に外国語を学習しながら、外国の文化等に直接触れる機会を与えることで学習意欲を高める。 ②都学力調査において市平均をあげる。					①東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査における問い「英語を使える(英語を聞いたり話したりして、思っていることを伝え合える)ようになりたいですか。」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」に回答した数値(%) ②都学力調査 英語の市平均正答率(%)							
③ そのために何をしましたか。					③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)							
①小学校外国語(英語)活動にあたり、外国人講師を派遣し、言語や外国の文化に直接触れる学習を行っている。 3、4年生 1学級あたり年間21コマ(時間) 5、6年生 1学級あたり年間42コマ(時間) ②中学校の外国語(英語)授業あたり、外国人講師を派遣し、言語指導を行っている。 1~3年生 1学級あたり年間9コマ(時間)					講師派遣日数 ※平成30年度より、時間単価契約から日単価契約に変更したため、活動指標にも変更が生じている。							
指標の推移			単位	過去2年間の実績		当該年度		成果目標				
				平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度実績		令和2年度目標		令和3年度目標		
	対象指標	①の数値	人	①1,444 ②2,124	①3,003 ②2,100	①3,039 ②2,053						
	成果指標	②の数値	%	①不明 ②55.2	①86.1 ②48.5	①84.8 ②47.8						
	目標	②の目標値	①%②点	①90% ②56.7点		①90% ②都平均点		①90% ②都平均点		①90% ②都平均点		
目標値設定の考え方 ①英語に対する学習意欲がある児童について全体の90%以上を目指す ②都の平均点												
活動指標	③の数値	日(H29まで時間)	1,004	455	857							
3 経費	事業費(実績)		円	6,939,649	11,793,600	22,444,800		※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,310,000円 時間単価は、4,300円 で計算してください。 【算出根拠】平成30年度決算数値。 (退職手当組合負担金、共済費も含む。)				
	財源	一般財源	円	6,939,649	11,793,600	22,444,800						
		特定財源	円									
	(うち受益者負担)		円									
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.01	0.01	0.01						
		所要人数(再任用)	人									
職員人件費(再任用以外)		円	82,530	82,440	83,100							
職員人件費(再任用)		円										
事業費+人件費		円	7,022,179	11,876,040	22,527,900							
4 環境変化等	(1) 開始年度		昭和63年度									
	(2) 環境の変化		①平成32年度新学指導要領全面実施に伴う小学校英語教科化において、外国語活動時間数が大幅に増加することとなった。それに伴い、平成30年度から3、4年生に外国語講師の派遣を新たに実施し、5、6年生の外国語講師の派遣時間数を増加させた。 ②平成30年度より、時間単価契約から日単価契約に変更したため、授業時間以外も児童生徒と一緒に活動できるようになっている。									

事業名称	国際理解教育推進事業費[小中学校英語指導助手派遣事業]			
担当部署・課長名	教育指導課	課	指導係	課長名 佐藤 洋士

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成31年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について	
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。(複数回答可)	
	<input type="checkbox"/> 取り組んだ <input checked="" type="checkbox"/> 取り組まない	取組手法： 【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体：) ⑦後援・場の提供 ⑧その他()
	(2)令和2年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点	
7 課題	(1)平成31年度に課題とした内容(「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題(3))を転記)	
	①平成32年度新学指導要領全面実施に伴う小学校英語教科化において、外国語活動時間数が大幅に増加するため、外国人講師の派遣日数をさらに増加させ、充実させていく必要がある。	
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成31年度に実施したこと。	
	小学校3・4年生のコマ数を1学級あたり年間6から21コマに、5・6年生を24から42コマを増やして実施した。	
(3)(2)を踏まえた今後の課題(仕事の最適化・合理化の提案)		
外国人講師派遣の時間数の増加を目的に予算の増額を検討する一方で、契約単価増を抑えたい。 外国人講師とともに授業を実施する教員の能力を高めるため、外国語指導に関する研修を実施する。		
8	施策貢献状況(この仕事は、総合計画(基本計画)に掲げる課題の解決手段になっているか。)	
施策名： 学校教育の充実		
<input checked="" type="checkbox"/> なっている <input type="checkbox"/> 環境の変化等により成果が減少している <input type="checkbox"/> 類似の事業が他にあり改善の余地がある(事業名：)		
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性(「7 課題(3)」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など)	
	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 【取組内容】	
	(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等	